

宮農情報

水稲

育苗管理を万全に、
気象変動に負けない健
苗育成を

育苗管理で最も注意が必
要なのは、育苗初期（1・
5葉期）です。適切な温度
管理を充分行い、徒長苗な
どにしないよう十分注意し
ましょう。

また、日差し強い日は
早めにハウスを少し開け、
風の強弱や外気温の高低で
開け方を調整するなどし
て、30度以上の高温にしな
いようにしましょう。

水稲育苗終了後に野菜類
を栽培する場合の留意点

育苗箱の下に無孔のシー
トを敷くか、プール育苗と
して、育苗期に施用した農
薬が土壌に浸透しないよう
にします。

○移植当日に薬剤を処理す
る場合は、育苗施設外で散
布処理します。

被覆資材について

○被覆資材除去の目安は中
苗で出芽長0.5cmです。苗の
葉鞘高が伸びたり、第1葉
を伸ばしすぎると出葉が遅
れやすくなるので注意が必
要です。

○第1葉鞘長は中苗で2.5cm
を目標とします。

○被覆期間を必要以上に長
くせず、出芽後の再被覆は
しないようにします。



いもち病の発生源

○本田における、いもち病
の病伝染源は、育苗施設か
らの発症・感染苗の本田へ
の持ち込みや、乾燥状態で
冬を越した稲わらや籾がら
に付着した、いもち病菌で
す。

○水稲育苗施設内やその周
辺での籾がら、稲わらの放
置や使用・保管を避けるこ
とで、葉いもちや穂いもち
の被害を未然に防ぎます。
○稲わらや籾がらに水分を
含ませることで、いもち病
菌を死滅させることが出来
ます。

苗立枯病・苗いもち防除
(播種時)

| 使用薬剤 | 濃度・散布量 | 注意点 |
|------------|---|--------------------------|
| ダコニール 1000 | 500～1,000 倍 500ml/灌水 | ベンレート水和剤は、 いもち病と同時に防除 |
| ダコレート水和剤 | 400～600 倍 500ml/灌水 | |
| ベンレート水和剤 | 500 倍 500ml/灌水 1,000 倍 1,000ml/灌水 | |

※播種後覆土前に鎮圧灌水の代わりに、ダコニール 1000 (リゾプス)、または
ダコレート水和剤 (リゾプス、フザリウム、トリコデルマ) を灌水できます。
※ベンレート水和剤を播種時に使用しない場合は、播種 7 日後頃までに使用して
ください。

播種量別の育苗日数の目安

| 播種量 (乾籾) | 100 g / 箱 | 140 g / 箱 | 180 g / 箱 |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 育苗日数 | 35～40 日 | 25～30 日 | 20～25 日 |
| 移植時葉数 | 3.5～4.0 葉 | 2.5～3.0 葉 | 2.0～2.5 葉 |
| 移植時草丈 | 13～15cm | 12～14cm | 10～13cm |
| 10a 当たり種子量 | 4.0kg | 4.2kg | 4.5kg |
| 10a 当たり箱数 | 40 箱 | 30 箱 | 25 箱 |

追肥

○追肥はロング剤を使用し
ている場合は不要ですが、
使用していない場合は、中
苗で 2 葉期と 3 葉期に、稚
苗で 1.5 葉期にそれぞれ窒素
成分で 1 g 追肥してください。
○追肥後は、散水して、葉
身に付いた肥料を洗い流
し、肥料焼けを防ぎましょ
う。